

## ロータリー財団奨学生 近況報告

2019～2020年度 グローバル補助金による奨学生

## 浅田 絵美 (あさだ えみ)

スポンサークラブ：相模原ロータリークラブ

留学先：プロセスワーク研究所 (アメリカ)

専攻：プロセス指向ファシリテーション、葛藤学

相模原ロータリークラブよりご推薦いただき、この10月よりアメリカのポートランドに留学している浅田絵美と申します。ロータリアンの皆様からの温かいご支援に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。ポートランドは世界有数の環境に優しい街とされ、自動車がなくとも電車や自転車で移動する人も多く、また多様性を受け入れる風土があり、とても住みやすい街です。

私は現在、プロセスワーク研究所のプロセス指向ファシリテーションと葛藤学修士プログラムにて学んでおります (Master of Arts in Process-Oriented Facilitation and Conflict Studies)。開始して間もなく1ヶ月が経ちますが、2週目には早速5泊6日の合宿が行われました。当コースは少人数制でクラスメイトは私を入れて7名で、合宿所までの移動手段や食事の買い出しから調理、掃除当番も含め自分たちで相談して遂行する形になっており、その過程も全て学びの一環とされています。今回は幸いにも(?)大きな揉め事なく終了しましたが、各人の感情や文化の違いへ想像力を働かせ、些細なサインに気を配り、それぞれの嗜好や志向を汲み取りながら進める過程は有意義な学びとなりました。クラスの中を世界の縮図として捉え、生まれ育った社会文化背景やその違いの他、各人が持つ社会的地位や能力、言葉以外のサイン等々にも注目することで様々な気づきを得ながら、どのように調和できるのか思いを巡らし、それを社会に当てはめて考えるなど、全てが学びの場となっています。今後プログラムを通し、世界中の様々な現場でファシリテーションスキルを活かし活躍されている先生方や先輩方から学ぶ機会が多くあります。学びをどのように実践に繋げられるかを想像しながら、しっかり学び身に付け、世の中のお役に立てるよう精進して参

ります。

またこちらに来てから、ロータリーの方々に温かく迎えていただき大変お世話になっております。先日は受け入れクラブであるパールロータリークラブの例会に参加させていただき、海外プロジェクトの打ち合わせも参観させていただきました。またポートランド歴史博物館や市内を案内いただきました。慣れない土地で生活する上で暖かいサポートをいただき大変心強く、誠に感謝しております。今後も様々な活動に参加させていただきたいと思っており、様々なロータリアンと交流できる機会を大変楽しみにしております。

2019～2020年度 グローバル補助金による奨学生

## 細井 遊布 (ほそい ゆふ)

スポンサークラブ：鎌倉ロータリークラブ

留学先：London school of hygiene &amp; tropical medicine

専攻：公衆衛生

ロータリアンのみなさま、いつも温かいご支援と心強い応援をありがとうございます。鎌倉ロータリークラブよりご推薦いただきました、細井遊布と申します。私は、現在イギリスのLondon School of Hygiene and Tropical MedicineにてReproductive and Sexual Health Researchを学んでおります。ロンドンでは急にひんやりとした風が吹くようになり、それに合わせるように葉の色も変わってきて、美しい街並みの中を毎日大学院へ登校しております。本を読んで、パソコンに向かって、目がしょぼしょぼになったあと、木漏れ日を浴びながらゆっくりと歩くと清々しい気持ちになります。

9月から12月までの一学期に受講する授業のほとんどは必修科目で、統計や疫学、またReproductive Healthの基本となる部分を学んでいます。どの授業も、予習に復習、演習などについて行くのも精一杯ですが、わくわくしながら教室に向かい、ある時は勇気づけられ、ある時はどうしたものかと頭を抱えながら教室を出ます。学ぶことは、尽きることがありません。授業を受け、ディスカッションをし、論



大学院の正面玄関にて

日本人グローバル補助金奨学生とボーンマスにて

## ロータリー財団奨学生 近況報告

文を読むうちに、「こんなこともできるのではないだろうか」とやってみたくことがぽこぽこ湧いてきます。授業で紹介された読みたい本たちの名前がメモ帳にどんどん積もっていきます。大学院で開催されるタイトルだけでもそられる講演会のお知らせがメールボックスに次から次へと入ってきます。それら一つ一つに丁寧に心を向けながら、私にできる最善は何かを考えつつ、次の授業に備え、また本とパソコンに向かう毎日です。こんなにも時間が足りないと思ったことは人生にありません。このような幸せな経験をさせていただいておりますこと、心から感謝しております。

私事ですが、先日誕生日を迎えました。ちょうどロータリークラブのカンファレンスがボーンマスという港町で開かれていたときで、海辺が恋しかった私（日本にいた際に鎌倉の腰越海岸へよく遊びに行っていました）にはとても素敵な数日を過ごすことができました。同じくグローバル補助金奨学生としてロンドンで学んでいる学生たちと海岸に散歩へ行き、また日本からやってきている奨学生たちと食事をして、改めてロータリー財団から奨学金をいただくことの有り難さを感じました。異なる分野であっても先を見据えている友人たちと話をし、時間を共にすることができる貴重さを感じます。こちらで受け入れてくださっているEdmontonクラブの方々やカウンセラーのAndrewさんとも何度かお会いし、今度クラブへ伺う予定です。みなさま、「家族だと思って困ったときは何でもいつでも相談しなさい」と言ってくださる優しい方々です。

「苦しくて声が漏れてしまいそうになることも、悔しくて泣きそうになることもきっとあるだろう日々の中で、ああ美しいなと思える景色や温かな気持ちになれる記憶を心に留めたい」。渡英前に書き記していたものを読み返して、そんなに怖がらなくても大丈夫だったと胸を撫で下ろしています。気がついたらあっという間に1日の終わりが来ていた、という日が多いですが、ひと時ひと時を大切に恐れることなく進んで参りたいと思っています。

## 2019～2020年度 地区補助金による奨学生

## 田丸文菜 (たまる もな)

スポンサークラブ：逗子ロータリークラブ

留学先：マンチェスター大学

専攻：建築学

ロータリアンの皆様、いかがお過ごしでしょうか。この度逗子RCよりご推薦頂き、第2780地区補助金奨学生としてイギリスのマンチェスター大学に留学しております、田丸文菜と申します。専攻は建築なのですが、特に雨水や地下水の循環と建築空間の共生を目指し、研究を行っております。初めに、このような貴重な機会を与えてくださったことを、改めて心より御礼申し上げます。

現在、留学を開始してから約1ヶ月が経過しました。普段の学生生活では、週2日講義及び設計演習

があり、その他の日は週ごとの課題に加え、授業の予習やグループワーク、論文の執筆などに費やしております。

設計課題では無事希望の研究室に入ることができ、現在シュルーズベリーという街を対象に計画及び設計を行っております。シュルーズベリーは12世紀より要塞都市として発展した地域で、15世紀から16世紀の木造建築を含め、600以上もの歴史的建造物が残っている大変美しい街です。学部時代、主に都市部の更地を敷地として与えられていた私にとってその歴史的背景は大変興味深く、既存の街の構造や建物を尊重しながらいかに新しいものを築いていくかということに大いにやりがいを感じております。また、ここは洪水被害も甚大な地域である為、自身の研究テーマにとっても大変意義のある課題となっております。現在計画中の修士論文でも、地域における水の循環を主題とし調査を進めている最中です。

私が現在留学中のマンチェスターは学生が多く、国際色の強い都市です。ミラノで暮らしていた時はアジア人というどうしてもマイノリティになってしまい、現地の人とも距離を感じる事があったのですが、こちらでは国籍問わず誰とでも対等に接せられる環境が大変魅力的に感じました。

現地のホストクラブについて、今回私はオルトリナムRCに受け入れて頂きました。中でもホストであるストラカン夫妻には度々お世話になっており、来月は市内の名所を案内して頂く予定です。先月末にはロンドンで行われた奨学生のオリエンテーションにも参加させて頂き、世界各国からの奨学生と交流することができました。特にカナダでは若者のロータリーへの参加が活発であるという話は興味深く、日本のロータリークラブにもより多くの若者が参加できる仕組みが作れたら良いなと感じました。

ロータリーは、自身の専門領域だけではなく、様々な背景や専門の方々との出会いをもたらし、知見を広げてくれる唯一無二の存在です。改めて、ロータリーの皆様の温かいご支援に心より感謝いたします。また皆様とお会いできる日を楽しみに、今後ともより一層精進して参ります。



▲マンチェスターの街並み

▼オリエンテーション翌日、ロンドン自然史博物館にて

